

低学年における説明文の学習について

1. はじめに

高学年での説明的文章の学習が円滑に進むよう、低学年時に学ぶ必要があることを以下にまとめる。

2. 説明文の学習で「できるようになること」

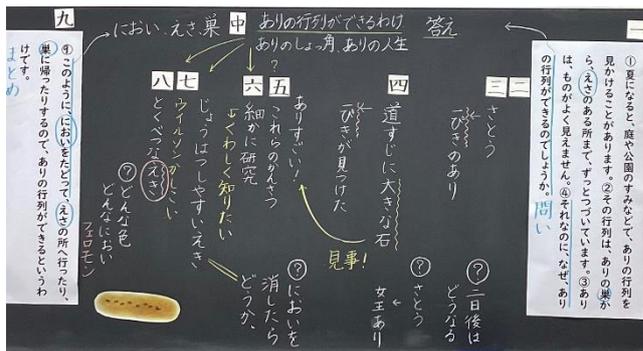
1、2年生では、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体をつかむことや、文章中の重要な語や文を考えて選び出すこと、3年生では段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることや、中心となる語や文を見つけることである。

3. 何を、どのように学ぶのか

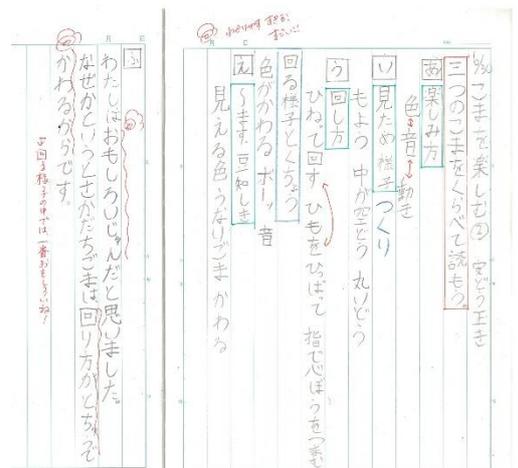
①三部構成を読む

「はじめ・中・終わり」の構成を読み取ることが必要である、なぜなら、三部構成で書かれた説明的文章は非常に多く、読者に筆者の考えを伝えるのに適した文章構成だからである。筆者ははじめに話題を掲げ読者の興味をひき、中で例を挙げて詳しく説明し、終わりで内容をまとめたり読者に提案したりしている。この文章構成を学ぶために、はじめをよく読んだり、はじめと終わりから繰り返される言葉を探したりして、中にどのようなことが書かれているのか考えながら読むなどして学ぶとよいと考える。

①板書



②ノート



↑はじめと終わりから、中に書かれていることを予想する。
事例を並べ、何の順で書かれているのか、どうして最後に紹介されたのかなど、事柄の順序について考える。→

②中の事例を読む

中には、筆者の伝えたいことが伝わるように事例を挙げている。2年生の学習から、事例がどのような順序で並んでいるのか考えることで、時間的な順序や事柄の順序について考えることができるだろう。3年生の学習では、段落ごとの「中心」となる文章を見つける学習を行うと、4年生以降の要約の学習に繋がるだろう。中心文だけをつなげて読むと、説得力に欠ける文章が出来上がる場合が多い。説明的文章の一部を隠して提示するなどして、筆者の説明に工夫に迫るとよいだろう。

③筆者の伝えたいことを読む。「どのように書いたのか」から、「なぜそのように書いたのか」を考える。

国語の学習を通して、子供には、「相手に伝わりやすい伝え方を選び、適切な言葉を用いて伝える力」や、「相手が伝えたいことを正確に理解する力」を将来的には身に付けてほしいと考える。そのため、説明的文章の学習では、筆者がなぜそのように書いたのか、筆者の書き方について考える学習を行いたい。